

米領サモア (アメリカン・サモア、東サモアとも呼ばれる)

私は仕事の関係で1974年より1977年の3年間南太平洋の米領サモアに在住していました。当時の記憶をたどりサモアを紹介します。

この米領サモアはアメリカ合衆国の非自治的・未編入領域で西経170度、南緯14度に位置し7島からなる(5つの火山島、2つのサンゴ島)。

ハワイとニュージーランドの間、フィジーとタヒチの間あたりと言ったほうが分かりやすいかと思います。

主島はツツイラ島 : 私はこの島に居りました。

南太平洋に浮かぶ多くの島々がそうであるように、この島も元々は火山が隆起してできた島です。

・ 面積 : 約199km²



- ・ 人口 : 約5万人
- ・ 現地民族: ポリネシア系
- ・ 公用語 : 英語、サモア語
- ・ 通貨 : 米ドル

- ・ 時 差 : -20 時間
- ・ 気 候 : 10 ~ 5 月 暑い雨季
 : 6 ~ 9 月 乾季

熱帯海洋性の多湿多温な気候で降水量も多く年間 5,000mm 以上の雨が降る。サマーセットモームの執筆、「雨」に登場するレインメーカー山が湾の奥にそそり立つそのレインメーカーに雲がかかると必ず雨が降ると言われ正にその通りで南太平洋の雨を一手に引き受けている山とも言われる。⇒写真(2)
雨と言ってもそれは“スコール”というやつで降ってる間は車のワイパーが全くきかないので車を道端に寄せて上がるのを待つしかない。

- ・ 首 都 : パゴパゴ(pago pago)
パゴパゴの町はパゴパゴ国際空港から車で≒20 分ほど東に位置し大きく入りこんだパゴパゴ湾を取り巻くように街並みが広がっている。
この湾は北側を 500m を超える山々に南側を 300m ほどの山々に囲まれているので波の静かな天然の良港となっている。
これらの山々に囲まれた海岸までのわずかな平地に家々が建っていて、山の中腹まで家が点在している。⇒写真(1)
かつてはアメリカの捕鯨船や海軍の重要な補給基地でもあった。

- ・ 日本でも知られてるサモア出身者: 小錦
元近鉄バッファローズのソレイタ
などがいました。



写真 (1)



レインメーカー 写真(2)

狭い町は車であふれていて銀行、郵便局、裁判所、国会議事堂、警察署、ショッピングモールそして数少ないレストラン、バー等がその一カ所に集中している。



島民の足といえは大小のトラックを勝手に改造して客席を付けたバスが数多く存在し島の各地に向けて頻繁に走っており、停留所はどこにもなく町で手をあげれば止まり行き先を告げればその前まで寄り道してくれる。料金は\$10かかる空港 - パゴパゴ間のタクシー料金に対して75セント、近距離であれば25セントと手頃。



観光名所や気のきいたレストランはほとんどなく普通の旅行者が来て楽しめるとはいえず島の住民の多くはアメリカ本土に出稼ぎに出る。

唯一観光らしき風景といえば年に2~3度(?)給油のため入港する世界一周豪華船の半日くらいの滞在時間を利用して島内見物をする乗客のために上述のバスが数多く走り回る時ぐらいだろうか。

主な産業は鮪の缶詰めでアメリカ資本の缶詰め会社(スターキスト、バンキャンプの2社)が有りそこで多くの島民が働いていた。

アメリカで消費される鮪缶詰めの約 1/5 がこのサモアの工場で生産されていたという。

当時遠洋鮪船を有する韓国、台湾、日本の水産会社が上述缶詰め会社と契約しサモアを基地として太平洋、インド洋で操業捕獲した鮪(主にびん長鮪)を数カ月毎に水揚げのため彼等の所有する鮪船をサモア港に入港させていた。(韓国船≒200隻、台湾船≒150隻、日本船数隻)

数カ月毎に入港するこれら鮪船が必要とする漁具資材をはじめ操業期間中に必要とするありとあらゆる物資を日本から持ってきて在庫販売するのが私どもの仕事でした。

(扱い品目には鮪延縄資材に加え薬、ラーメン等の食料品、タバコ、ビールを含め数百点に及ぶ。何故か養命酒と救心がよく売れすぐ在庫切れとなったのが印象的です)

・パゴパゴ国際空港

滑走路は山と海の間であり長さも比較的短いいため世界でも有数の離着陸の難しいことで有名な飛行場。私が赴任した年の数カ月前にも PANAM 機が着陸に失敗し大きな事故が発生したばかりでした。山側から侵入する際は山肌ギリギリに来ないと海に突っ込んでしまうというし、逆に海側からくる場合もその進入角度を誤ると山にぶつかってしまうというパイロット泣かせの難所であると言われてる。



・衣食住

農作物では主にタロイモやヤマイモなどのイモ、バナナ、ココナッツ、コプラである。

島民はタロイモを主食としてるせいか小錦タイプが多い(特に女性)。

私共の生活スタイルといえば同グループの韓国、台湾からの駐在員と一緒に20部屋ほどある長屋形式のハウスを賃借し飲料水は貯めてある雨水を一旦沸騰し冷凍庫で冷やしたもの。赴任後これに慣れるまでさほど時間は要しなかったと記憶します。

食事は韓国から日本料理専門のコックを雇ってましたのでご飯、味噌汁はほとんど毎日。洗濯は数ドルずつ出し合って近所の女性の小使いかせぎとなってました

ハウス内では私共も現地人と同様ラバラバと称する一枚布(カラフルで色々な模様あり)を腰にまいてました。慣れるとこれが意外に快適。現地人は男性も女性もラバラバの下は何もナシ。(私共は中にちゃんとパンツを穿いてました)

・島内の治安関係

前述のように多くの台湾船、韓国船が入港していた関係で両国からの政府関係者、水産会社からの駐在員等が多く在住して居りまた我々日本からも数十社が集結し狭い島もアジア人で賑わっていました。

島内にある数少ないレストランや酒場は入港船員でいっぱいになり様々なトラブルも日常茶飯事でした。当然のことながら島民の我々に対する感情もあまり良いものとは言えず我々駐在員は島民を不用意に刺激しないよう常に気を配っていたのを思い出します。

・余暇の過ごし方

土日は朝から平日は夕方4時頃から(ほとんど毎日)ゴルフに興じてました。

パートナーはいつも缶詰め会社のアメリカからの駐在員でした。

島民はアメリカ人をパラギと呼び何故か一目を置いていたのでゴルフの他に食事や飲みに出かけるときは極力そのパラギと行動をとっていました。

駐在員同士でよく麻雀もしました。

ゴルフと麻雀が無かったら3年の服役には耐えられなかった？

・交通手段

仕事、ゴルフ時のみならずどこへ行くにも車は必要不可欠。

車の運転は前の駐在員からの引き継ぎ時に教わり、免許証は代々のしきたりに従いその関係の知人宅にびん長鮪を一本届けあっさり取得。

・日本からの訪問者

各社からの出張者の他に TV 局からの訪問も何度か有りましたが、その中で最も印象深かったのは兼高かおるさんの来島でした。各社駐在員との夕食会の後次の訪問地のタヒチ行き飛行機が出発する午前3:00までの間飲んで、しゃべって、ダンス(サモアンダンス)を楽しんだのを思い出します。当時は携帯やインターネットのない時代で日本からのフレッシュな話題で生き返りました。

2~3カ月毎に日本から在庫販売に必要な物資等を積んだ貨物船が入港。船の入港中はバーベキューやら船チームと駐在員チームに分かれソフトボール対決も楽しみの一つでした。

・サモア沖大地震

私が赴任中は一度も体感した覚えはありませんが、2009年10月にマグネチュード8を越す巨大地震がサモア沖で発生。発生後30分もせず到達した大津波で数百人に及ぶ犠牲者がでたといえます。小錦の叔父さん宅もそして私共が住んでいた集落の辺りも津波の被害を受けたと聞きます。

以上